

健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリー
指定管理者候補者選定委員会（第2回） 議事要旨

1 開催日時 令和6年（2024年）9月26日（木） 午後3時から午後7時20分まで

2 開催場所 吹田市保健所2階 講堂1

3 出席委員

- | | |
|------------|--------------------------|
| (1) 渡邊 智山 | 関西大学 文学部 教授（1号委員） |
| (2) 山本 壱弥 | 国立循環器病研究センター 理学療法士（2号委員） |
| (3) 石川 武敏 | 大阪学院大学 国際学部 教授（3号委員） |
| (4) 加我 宏之 | 大阪公立大学 農学研究員 教授（3号委員） |
| (5) 古曳 由美子 | 近畿税理士会 吹田支部（4号委員） |

4 次第

- (1) 指定管理者候補者の選定について
- ・プレゼンテーション審査
 - ・採点・講評
 - ・答申
- (2) その他

5 会議進行

- 【事務局より出席者の確認、資料確認】
- 【委員長からの挨拶】
- 【事務局より応募資格及び書類審査についての説明】
- 【各委員より審査ポイントの説明】
- 【各委員からの御発言】
- 【質疑・意見交換等】

プレゼンテーション審査

<次点者>

【質疑応答】

委員） 図書館は市の職員側で行う業務と受託者側で行う業務があり、書籍の紹介は市の職員によるレファレンスサービスとしてやる方が適切である場合があるとも考えられますが、このあたりの切り分けは考えられているのでしょうか。

次点者）「窓口での書籍の紹介」に関しては、本棚の位置や場所の紹介を主に考えておりま

す。また、検索機での検索の補助等をして利用者の方をスムーズに本に結び付けられるような案内ができるようにということを意識した文章です。

委員) ではレファレンスサービスの前段階の簡単な調べ方、検索の仕方を受託者側で行い、より深いところは市の職員へつないでいくというお考えでしょうか。

次点者) そのとおりです。

委員) 「公園の維持管理等に関する業務」について。現在と比較してどのように強化をし、品質の向上を図っていこうと考えられているのか、また、2つの企業・団体の専門等を教えてください。

次点者) 2つの企業・団体の管理実績等ですが、1つは大阪市の八幡屋公園、東住吉区の長居公園等の実績がある企業で、吹田市岸部に本社のある企業となっております。今後の維持管理をどのようにしていくかにつきましては、公園とライブラリーの管理を一体化し全てのチェック作業をお任せすることを考えております。岸部にある会社ですので、すぐの駆け付けも可能ですし、図書館・公園と連携して行っていく予定でございます。もう1つは、以前に吹田市から現公園の芝生の維持管理を任されていた時期もある団体です。

委員) 土壌の状態を調査するとしている企業はどのような会社ですか。どんなことを担っていただいて、今回の公園管理にあたりどのような役割を果たす方々ですか。

次点者) 公園管理で植栽の管理を中長期的に見ていかなければならないなかで、まず樹木医を探したところ、何社か紹介していただきましたが、最終的にこちらに決まったという形になります。本企業に関しては、芝生のエリア含め緑のひろばの取材をしたいということで紹介していただき、そこから繋がっております。

委員) 樹木医の方ですか。

次点者) 樹木医はまた別の団体だったのですが、樹木医による樹木の調査をさせていただきながら、木の生育状況というところに課題がありますので、樹木医に見ていただいたうえで、枯れているのが樹木による原因なのか、土壌による原因なのか両面で調査が必要であろうというところで、本企業は土壌調査ができる団体です。

委員) 植栽調査をされる調査グループの方々ということですか。

次点者) そうです。

委員) 公園づくりの協議会運営で、公園協議会というのが今回新しく仕様で加わってききましたが、公園協議会に取り組むことの意味や効果、また実施していくうえで今予測される苦労点、難しい点などがあればお教えてください。

次点者) 公園協議会の開催に向けて、我々が感じているところとしては、公園利用者さん、地域住民さん、産官学等の関係先と一緒に公園協議会をやっていくというところで、まず参加できる環境を現場でしっかり作っていかないといけないと考えております。また彼らのニーズをしっかりと把握し、「気軽に楽しみながら健康づくりができる公園」というのを一つ大きなテーマにして公園協議会の中でもディスカッション

ョンし、健康に携わる部分というのはキーワードになってくるかと考えておりますので、そういったところを念頭に置きながら公園協議会を開きたいと思っております。少し気になるところとしましては、地域住民の方、公園利用者さんも参加していただくことで、個人的なニーズ・要望が出てきてニッチな要望に対して問題解決していくということも他の指定管理施設では起きやすいことかと感じております。原点に立ち返って「気軽に楽しみながら健康づくりができる公園」というのをテーマにして進めていけたらと考えております。

委員) 収支計画書(指定管理業務)の支出のところで「本社管理費」が毎月100万円を超える支払いを予定されていますが、これはどこの数字をもとに出てきているのか、計算のもとは何ですか。

次点者) 本社管理費につきましては、資料にもこういった経費であるということを書かせてはいただいております。この経費につきましては、社内での事業規模、売上規模と連動して一定の率で按分しているという経費になっております。

委員) その規模のもと、何を按分しているかを知りたかったのですが、本社の決算書のどのあたりの数字をもとに計算されているのでしょうか。本社の例えば損益計算書のこの数字に連動している、というのがあれば教えていただけますか。

次点者) 主には人件費になるのが大きいかと思います。本部のいわゆる間接部門(人事総務部、経理部、広報宣伝部、法務部、情報システム部等)にかかっている主には人件費の配賦費用になります。

委員) 販売管理費の給与手当や賞与に比例して増減するということですか。

次点者) そうです。指定管理業務に関わる分なので、本社の数字全てということではないですが。

委員) あくまでも予定なので今後色々なものが変更になってくると思うのですが、変更した時になぜ変更したかは説明がつくような資料が今後出てくるということでしょうか。

次点者) 最初に申し上げましたように、事業規模、売上規模に連動しているところがございますので、売上の増減によって本社管理費も一定上下するというところがございます。

委員) 御社の出している給与が変わるということではなく、施設の売上が上がると連動して上がり、下がると連動して下がるという認識で良いのですね。

次点者) おっしゃるとおりです。

委員) これらは予定なので今後変更することもあると思いますが、変更に関する見直しというのはどのようにされるのですか。

次点者) 5年の指定管理の中で、御覧のとおり前半は黒字、後半が赤字ということで、トータル5年間で収支プラマイゼロという計画を出しております。1年1年追いかけるわけではなく次期指定管理5年間の収支というかたちで見ているのですが、前半は非常に収益が残るのですが後半、人件費が上がってきたり業務委託費が上がってきたりす

ることによってどうしても売上よりも経費が上がってくるという状況が訪れますので、単年ごとに業務委託費は契約を見直しながら効率化を図っていきまして、計画では今このように見ているのですができるだけ指定管理で赤字を出さないような運営は必要かと思っております。

委員) 人件費以外も変更があるかと思うのですが、そういうものはあまり予定されていないということですか。

次点者) そうです。大きな変動のあるものとそうでないものは認識しているつもりです。

委員) 広報のところで、経験上、ホームページが効果的だからホームページを中心となっているわけですか。

次点者) 今はスマホの所持率が高まっておりますので、気軽にスマホから確認するところというのがやはりホームページかと考えております。利便性を高めて、発表の中でもお伝えしましたが、興味のあるものに対してのお問い合わせが24時間できる、申込もできる、というところを活用していきたいと思っております。

委員) それ以外は何かチャレンジされるのですか。

次点者) 健都が近隣地域住民の方にどれだけ認知度があるのかというのが気になっているところでございます。その中で、健都のことは知っているけれども魅力がないから行かない、来ていないのか、存在すらあまり知っている人がいないのか、吹田市様の広報誌を活用して、2次元コード等を使いましてアンケートに誘導して回答を得られたら、そこから分析して次のアプローチにつなげていきたいと思っております。

委員) 健康増進に関することについて、こういった方がプログラムを考えているのですか。また、中学生や高校生世代のイベントというのはあまりないのでしょうか。

次点者) 提案のプログラムについては、介護予防事業というジャンルの教室になりまして、構成企業との共同企画で一から作り上げたプログラムとなっております。無料で実施するものと有料で実施するものとがありますが、基本的には継続することが効果を上げていくプログラムですので、最初のきっかけは無料で始めてもらいながら、御自身の健康のためにも社会参加のためにも、有料になる部分はあるのですが継続して御参加いただきながら、認知予防、持久力・筋力を高めていくようなプログラムということで展開しているものでございます。

中高生の利用に関しましては、薬剤師さんや医療情報関係の方と一緒に、例えば薬剤師を目指している中高生向けに、目指すべきものを目の前に提示することで職業選択の助けになればという企画をしております。また、高校生に関しましては、対象は小学生なのですが、講師側に立ってもらったうえで図書館というものをより知ってもらう、講師という立場を経験する場面を提供するという役割も果たしているかと思っております。

次点者) 補足です。中高生の運動の部分という御質問だと思うのですが、夕方に開催しますプログラムに、中高生がカフェを利用しているところに声をかけて参加していただい

たり、夜に開催しているプログラムに参加いただいたりということはありません。

委員) プログラムとしてのキャッチボールと通常利用としてのキャッチボールについてはどのようにお考えでしょうか。

次点者) 小さなお子様や中高生の方でも円陣になってバレーボールをしたりということもありますので、見かけた場合には他の方の迷惑にならないような利用をお願いしますねと声かけはしながら健康増進広場の中でしていただいたり、ちょっと遠くに飛ばすのであれば広い緑の広場のエリアに行く、キャッチボール等の固いボールでちょっと危険が伴うような場合はフェンスのあるエリアに移動していただくなどし、公園内でのボール遊びの利用禁止ということまではしませんので、使い分けをしていただくように御協力いただきます。

委員) 収支計画について説明してください。

次点者) 我々の強みとしましては多数プログラムをやっていくなかでそれを現場の社員がこなせますので、外注する講師料は通常の他者様よりも下げられるのではないかと考えております。

委員) 余剰資金が出た場合、どういったところに投資をされるのか、もし残ったらどのようにされるのかという案はあるのでしょうか。

次点者) 5年間あるなかで前半2年は余剰金が出る、後半は出ない可能性があるということです。単年を切り取って余剰金が出ているから何かに使いましょうではなく、今のところ先になってくると赤字も見えているところですので、しっかり見定めていきたいということは前提としてあるのですが、実際余剰金が出た場合は、課題として捉えております樹木の生育状況があまりよろしくない場所もございますので、そういったところに土の入れ替えなのか樹木の入れ替えなのか、吹田市様と相談のうえで進められたらと思っております。

委員) では4年目5年目で先が見えてきたら余剰資金の使い方を相談していこうということでしょうか。

次点者) 都合よく我々の考えを吹田市様に御理解いただけるかは御相談も要るかと思います。単年でも余剰金が出ていたら次の年に幾分か使ってほしいというお話は当然あるかとは思っていますので、我々もそこは理解しながらも5年で収支を見る部分もあるので、相談しながら使える部分、使える範囲で対応していけたらと思っております。

委員) わかりました。後半人件費が上がったりすることも踏まえて、前半抑え目で余らせながらといったことを考えておられるということですね。

次点者) そうです。

委員) 前半が黒字で後半が赤字というのは、もうほとんど人件費の値上がりが予想されることに尽きるのでしょうか。

次点者) 人件費と委託料が上がってくると見えています。実際、見積もりも取っていますので、外注している部分は確実に上がってくるのですが、5年間で契約しているわけではな

いので、単年ごとに見直しを図りながら抑えられる部分は抑えて内製化できる部分は現場のスタッフでやっていくことも必要ではないかと思っております。

委員) わかりました。世の中だいたい上がりつつある傾向がありますが、それを見てそのようにおっしゃっているということでしょうか。

次点者) そうです。最低賃金がどんどん上がっていきなかにアルバイト料の時給が1500円、2000円となってくることも十分考えられる状況ですので、5年間の収支計画のなかでこういったところも見込んで計画していくとどうしても後半このようになってくるのですが、これがベストな収支計画かどうかはわかりません。

委員長) 公園管理について、クレームが入る以前に事業者が行う主体的な取組としてどのようにやっていこうと思っておられるのか、もし考えがあればお聞かせください。

次点者) おっしゃるとおり、お客様からの声を受けて対応するのは50点かなと考えておまして、実際には日々の巡回によってどこがお客様にとってリスクがあるのか、リスクにも色々な意味がありますが、管理者側で早期発見して、クレーム・御意見そのものが出ないようにしたやり方が大事だと思っております。それでもお客様の方が先に気付いてしまって我々の対応が後手に回ることもあるかもしれませんが、考え方としては今申したとおり何も言われないうちに先に動いてリスクを管理していくところかと思っております。

委員長) 今回御社がここは他の団体さんに負けていない、この委員会でアピールしたいという点がもしあったらおっしゃっていただきたいと思っております。

次点者) 今後、修繕や不具合のリスクも高まってくると思いますので、スピード感をもって対応できるところが強みだと思っております。また、プログラムの実施回数についても、募集要項、仕様書に書かれている要求水準をしっかりと超えていく回数、参加人数を集客したいと考えております。ここが一つ提案の強みだと思っております。

委員長) ありがとうございます。では最後に事務局より確認事項等はございますでしょうか。

事務局) 管理運営仕様書のなかで、健都関係者が実施するイベントへの積極的な連携等を記載しております。これに関連して、例年、健都エリアで健都進出企業等が参画する健都フェスを開催していますが、共通パンフレットの印刷等、費用負担を含んだイベントへの参画や協力について、御検討をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

次点者) 御協力させていただこうと思っております。

事務局) ありがとうございます。

【採点】

<団体 A>

【質疑応答】

委員) 「市立吹田市民病院への入院患者向け『移動図書館』の実施」という記述があります。市の司書の側とどう切り分けるのか、本来であれば市の方が計画立案して受託側が業務をしていくというのが一番普通かと思います。そうしないと、せっかくやってきたものがなくなるということでは利用者側も戸惑うと思うのですが、そのあたりどう考えておられるのか。また、「近隣保育施設と連携した読み聞かせイベント」というところ、実際には図書館で司書が読み聞かせイベントをやり、また出張して読み聞かせするというのもやっているのですが、そちらとの切り分けをどう考えていらっしゃるのか。

「配置職員のローテーション表」がございます。総括責任者または副総括責任者が図書館開館時にいるような体制を求めているのですが、ローテーション表を見ますと、総括責任者、副総括責任者も含めて同時にいない時間帯がかなりあるように見えるのですが、この人数で本当にまわしていけるのかが疑問です。

「ライブラリーについて」の「防犯に関して」のところに「監視カメラの設置」というのがあります。図書館は「利用者の秘密を守る」という『図書館の自由に関する宣言』というのがありまして、そちらを十分尊重しなければいけないというところで、内部で論議して、監視ではなくて利用者の安全を守る、痴漢行為等の犯罪行為を防ぐ等の名目をつけたりして非常に苦勞して設置しているのですが、そのあたり慎重に検討することは考えられているのかどうか。

団体 A) 1 点目の吹田市の司書の方との切り分けについてですが、基本的には既存の、今すでに行っているような近隣の保育施設への読み聞かせイベント等につきましては従来のまましていただきまして、こちらの方で公園の協議会等を通じて新たな繋がりができてくると思いますので、そういった施設様に関しましては、個々の施設にこういう需要があるので読み聞かせイベントをやったらいかがでしょうかという御提案をさせていただきまして、運営上問題がなければ一緒に行かせていただき読み聞かせイベント等をしていただくというイメージで考えております。基本的にはこちらの方からの御提案というかたちで考えております。

「配置職員のローテーション表」につきまして、総括責任者と副総括責任者の時間が少ないのではないかという御指摘に関しましては、健康づくり事業リーダーも正規職員で実務経験 1 年以上の職員を配置いたしまして、総括責任者と副総括責任者のできるだけ少ない時間をスポットとして充てるように努めております。また、総括責任者と副総括責任者以外にも窓口業務リーダーと施設管理担当は契約職員の方を採用しようと思っておりますので、こちらで協力し合いながら回していくということで今のところ考えております。

続きまして監視カメラの設置につきまして、私たちの管理する施設でも個人情報を守ることは非常に重要視しておりまして、監視カメラを設置するにもどちらに配置するかとても懸念するところではあるのですが、昨今、SNS の発展などにより未成年

者を狙った犯罪等もございまして、図書館もお子様や家族連れのお客様もよく利用されると思いますので、入口だけ、駐車場だけに設置するなど臨機応変な対応をしてできるだけ安全なライブラリーの環境づくりをさせていただこうと考えております。

委員) 「事業報告決算書」税引き前の利益のところが「3 正味財産増減計算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで」に「当年度」「前年度」というところがあり、経常経費の当年度というのが直前期でこれがマイナス9000万円、前年は7300万円の黒字です。同じように後ろの方のページに前々年があり黒字なのですが、なぜ当年度がこのように赤字なのでしょう。

団体A) 前年度別の公園の応募をさせていただきました。それが投資を伴うPMO型の公園で、何億円という単位で投資を求められており、それによって赤字となったところですが、ただ、収入が落ちてとか想定外の支出があつて赤字になったということではなく、もともと予算を組んだもので計画していたとおりの執行で赤字になったもので、財政基盤としては問題ないものと認識していただいて大丈夫だと思います。

委員) どれぐらいの金額が出たのですか。

団体A) 3億円以上、3億8000万円くらいです。

委員) そのうち回収できるのですか。

団体A) 自主事業として行う施設にも投資しておりますし、来園者が増えるための支出として投資しておりますので、回収できる見込みとなっております。

委員) 何年くらいで回収予定ですか。

団体A) PMO型に関しては20年型の指定管理で投資を求められたのですが、だいたい10年程度で回収できる見込みとなっております。

委員) わかりました。あと、「収支計画書(指定管理業務)」について、令和7年度から広告宣伝費が407万円と初年度が多いのは、何が入っているのでしょうか。

団体A) 広告宣伝費につきましてはパンフレット製作とホームページ製作が入っておりますので、初年度に関しては初期投資として大きくなっております。

委員) その後は年間30万円で、どちらかというとな少ないかと思いますが、これでおっしゃっていた色々な企画ができるのでしょうか。

団体A) 各種ちらしの印刷と求人募集等を見込んで30万円と組ませていただいております。

委員) ちらしくらいで、あとはお金のかからないような広報活動を企画されているということですか。

団体A) そうです。時代に即してSNS等も活用して広告させていただけたらと思っており、このくらいで見込んでおります。

委員) 「本社管理費(事務費、退職給付費用)」の割合がかなり高く、収入に対して18%前後、多いところだと令和8年度は19.5%あるのですが、これは何が入っているのですか。

団体A) 本社で一括して経理業務を行いますので、そちらのシステムにかかる費用、あと人

件費、退職給付費用も充てております。

委員) これは計画書なので実際始まったら変わることもあると思うのですが、この費用はまだ増えたりすることもあるのですか。

団体 A) 基本的にはこの額内で収めようと考えております。

委員) これは何かに連動して、例えば本社の決算書に連動して変わるものなのですか。

団体 A) いえ、基本的にはこの業務に即して考えております。

委員) 残りのお金が全部ここで消えてしまっている気がしたのですが、そういうわけではないのですね。何か根拠があるのですか。収入はほとんど変わらないのに本社管理費が増減するのですが、この変動というのは何に連動してこのように動くのでしょうか。

団体 A) 退職給付費用も含めておりますので年度ごとで微々たる差にはなってくるのですが変わってくるかと思います。基本的には赤字が出ないように組ませていただいておりますので、そのあたりも考慮して計上させていただいております。

委員) 赤字が出ないようにということはやや固めに、多めに予算を組んでおられると思うのですが、例えば、やっていくうちに余剰金が出ることもあるかと思いますが、それは通常はどのように調整・修正していかれるのですか。

団体 A) 多大な余剰金が出ることはないと予想して組ませていただいておりますが、もし出た場合は市と協議ということになるかと思います。

委員) 多めに出しておられるのかと思っていたのですが、それでも余剰金はないものなのですか。

団体 A) 基本的には出ないと認識して組ませていただいております。ある程度の利益に関してはその企業の自助努力によって賄われたものと認識しておりますので、そこは問題ないかと思っております。

委員) 本当に余剰金はないのですか。あまりコスト削減はしないで粋一杯使ってしまうのかという印象を持ってしまうのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

団体 A) もちろんコスト削減はさせていただくのですが、多大な余剰金が出た場合は利用者に還元するよう何か利用者サービスが提供できるものを購入したり、簡易な施設整備を行ったりして還元していけたらと思っております。

委員) 定期的に吹田市と相談して使い道を決めていくということですね。

団体 A) そうですね。ただ、利益をまるまる持っていかれるというのは企業として指定管理を担う意味がなくなってしまうので、そのあたりは認識しておいていただけたらと思います。

委員) 本社管理費は、他に利益は入っていないのですか。

団体 A) 利益も数%含んでおりますが多大な計上はしておりません。

委員) 実施事業プログラムについて、他のところでもプログラムをやってアンケート等の結果もあるのですか。

団体 A) こちらに挙げているプログラムは、基本的に私たちが今まで管理したことがある公

園で実際やってきたイベントばかりとなっております。一例を申し上げますと、フラワーセラピーというイベントはかなり長期間定期的に開催していたイベントなのですが、日常生活のなかで感じるできないような余裕を感じていただけるプログラムです。お花自体は8人くらいで植えるのですが20人分くらいお花を用意しその中から自由に選んでいただいて花の効果や色の効果を感じてアレンジメントしていただくというもので、かなり人気の講座となっております。転勤族の方が多いエリアでこのイベントを開催しておりまして、家の中にいると閉塞感ばかりが募って気分も落ち込んでいたがこのイベントに参加することで気分も明るくなったといったお言葉をアンケートの中でいただいたりしまして、今回提案させていただきました。

委員) 子供向けプログラミング教室はパソコンか何かのプログラミングですか。

団体 A) そうです。プログラミング教室につきましても、他の私どもの管理している施設で行っておりまして、プログラムを組んで実際に乗り物を動かす、という展開をしています。同じような感じで、プログラミングを組んでロボットを動かしてみたり車を動かしてみたり、お子様にもできるように噛み砕いたかたちで体験していただくということを考えております。

委員) 「スマホでうまく写真を撮る方法」はターゲット、年代というのはあるのですか。

団体 A) 私どもの想定といたしましてはシニア世代の方と考えております。今の若い世代の人たちは SNOW のアプリを使ってご自身で撮る方法を御存知の方が多いのかなというところもありますので、どちらかといいますとシニア世代、中高年の方向けに考えております。

委員) 保健師さんがいて様々な子供からお年寄りの方まで健康相談をするということですか。

団体 A) はい。

委員) 年間全プログラムの回数はどのくらいと考えたらよいのでしょうか。

団体 A) 全プログラムをあわせて700回以上は開催するイメージで考えております。

委員) 植栽管理について中低木は問題が発生したら取り組むのでしょうか。もしくは御社のノウハウとしてヤマボウシ、サルスベリ、ツツジ、アジサイといった種ごとに一定の管理作業マニュアルがあるのでしょうか。

団体 A) 定期的に刈り込みは行いながら、スポット的に伸びきったものがないか常日頃注意して刈り込みを行う予定です。

委員) 高木、中低木、芝生、草地、草花も一定管理マニュアルがあってそれを応用される、もしくは場所ごとにそういったものを作られて定期的にやっていくことをお考えですか。

団体 A) 基本的には場所ごとに分けて剪定作業を行います、問題は樹種ごとに発生しますので、それに対応した管理等も行います。

委員) 今回新たに公園協議会に取り組むにあたって何に気を付けないといけないか、また

公園協議会に取り組むことによって重点的に効果を発揮するように考えていることがあれば教えてください。

団体 A) 協議会の運営に関しては実行性に注意して運営していきたいと思っています。実行性を担保するために各協議会それぞれにメリットが生まれるような協議会にしていく予定です。協議会ごとに行う予定の取組を定め、そのリストを作成して実行性を可視化したうえで、実行した取組を評価できるような運営の仕方を考えております。重点的に頑張ることとしましては、提案書に記載していることの実行からまずは進めていく予定です。例えばかるしおプロジェクトの認定商品の販売や病院等への移動図書館の実施、商業施設への出前講習会・寄せ植え講習会の実施等から始めていくことを目標に、その他各主体にもメリットが生まれるような取組を進めていきたいと思っています。

我々15年にわたり色々な公園で協議会の運営をしてきているのですが、なかには目的は何だったのだろうと、協議会に皆さん集まってはいただくのですがこの機会に何を決めていくのか、何を目的にやっていくのかが見えてこなくなると、忙しいなか集まっていたいただいているにもかかわらず効果的な取組ができないともったいないという経験を持っていますので、せっかく集まっていたからには公園だけが何かをしたい、ライブラリーだけが何かをしたいではなく、集まっていた皆さんがWin-Winになっていただけるように、皆さんが協議会に来てよかったと感じていただけるように、目的をもって取り組んでいくことを大事にしていきたいと思っています。そのなかで、健都にこういったライブラリーや公園があるというのはすばらしいことだと思っていますので、この公園とライブラリーがあるからこそやطيعること、取り組んでいけることを協議会のなかで模索をしていって皆さんと一緒に取り組んでいけたらと考えております。

委員) 先ほど直前期が赤字になった理由が投資を伴う応募ということでしたが、そもそも収入のところが前期に比べて4億円ほど減っているのも原因かと思います。これはなぜですか。また、今後の予想としてはどうなるのですか。

団体 A) 今後は増える見込みとなっております。前年度に関しては有価証券の購入も行っており、自治体へ1億8000万円程度寄付も行っておりますのでキャッシュフロー的には一時的に下がっております。今後はそういったものは今のところ起こらないと考えておりますので、減ることはないと考えております。

委員) 何の寄付をされたのですか。

団体 A) 駐車場の拡張工事等です。そちらは利用料金施設になりますので自治体に寄付し、あとは収益を生まないイベント広場等に寄付させていただきました。

委員) そういったこともされるんですね。売上の方は契約が5年単位なので新たに増えるものもあれば減るものもあると考えていたら良いですか。

団体 A) そうです。

委員) ここは吹田のなかでは吹田市民が全体的に来るには不便な場所です。そういったものをサポートするアイデアはありますか。

団体 A) 我々は他公園も管理しておりますので、他公園も訪れながらこの公園も来ていただくようなスタンプラリー等も企画しまして、他の公園に来ておられる方に健都レールサイド公園の魅力を伝えて、来てもらおうという思いはございます。

委員) お金を使ってでも来たいと思わせるような何かを提案されるということですね。

団体 A) 今日出張で色々と講習に行くということを申し上げましたが、これは健都レールサイド公園の周辺でももちろん行いますし、違う沿線の施設に出向いて行くことも可能ですので、そういったあらゆる方法を使って広報を行っていきたいと考えております。

委員長) デジタルサイネージ、YouTube 等のメディアを使いながら広報発信をしていくということですが、本当に 30 万円でできるのかという疑問がありますがいかがですか。

団体 A) 直営でちらしを作る分には外部委託しないので、消耗品費として一部計上しております。広告宣伝費と印刷製本費をまとめさせていただいておりますが、一部は消耗品費の方に広告として使うような紙代が含まれておりますので、30 万円だけという認識ではなくもう少しあると認識しておいていただけたらと思います。

委員長) 一般の図書館とは異なる「健都ライブラリー」に関してのサービス、プログラムというのが、提案が少ないのではと思いますが、お考えを回答いただきたいと思います。

団体 A) プレゼンテーションのなかでもお話しमतとおり図書館と公園を複合的に使うような、融合させたような取組につきましては長年実績がありますので、実際選定していただいたあと図書館業務に精通した者も採用してその者と一緒に二人三脚でというかたちにはなるとと思いますが、選定していただいた暁にはしっかりと勉強させていただきライブラリーの運営を担っていけたらと考えております。

委員長) 改めて「健都ライブラリー」はどういうイメージですか。

団体 A) 健康・医療をテーマにしたまちづくりを行う健都のなかでのライブラリーというのが一つ大きいかなと思います。健康・医療に特化した運営を行っていければというところでは。そういった意味も踏まえまして健康づくり事業リーダーに保健師の配置を予定しており、ライブラリーを中心に、健康といっても運動だけではなく生活習慣も含めた色々な意味での健康をサポートできるような施設を目指していきたいと考えております。

委員長) 他の団体さんも応募されているなかで、御社がここだけは負けないというところのアピールをしていただけますか。

団体 A) プレゼンテーションのなかでも一度お話をしたのですが、「健康」というキーワードをあげた時にどうしても「健康＝運動」というイメージを持たれる方が多いかと思うのですが、我々は今まで他の公園で実施した事例もありますし、健康づくり事業リーダーに保健師を配置するということからもありますとおり、健康というのは単に運

動するだけではなく、心の健康、普段からの生活習慣も含めた色々な面での生活それ全てが健康なのであって、その健康を我々がサポートしていくということです。それが他の企業様とは違う我々独自のアピールポイントではないかと考えております。

委員) 健都ライブラリーが国立循環器病研究センターや市民病院と連携していくというのがありますが、そのあたり何か御提案ありましたでしょうか。

団体 A) 国立循環器病研究センター様が行っております、かるしおプロジェクトの認定商品の販売を健都ライブラリーで行うことによって連携と考えております。

委員長) 以上でこちらからの質疑応答は終了したいと思います。最後に事務局より確認事項等はございますでしょうか。

事務局) 管理運営仕様書のなかで、健都関係者が実施するイベントへの積極的な連携等を記載しております。これに関連して、例年、健都エリアで健都進出企業等が参画する健都フェスを開催していますが、共通パンフレットの印刷等、費用負担を含んだイベントへの参画や協力について、御検討をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

団体 A) ぜひ協力して行っていけたらと考えております。よろしくお願いいたします。

事務局) ありがとうございます。

【採点】

<健康医療都市まちづくり本舗（以下「本舗」とする。）>

【質疑応答】

委員) パーソナル知育絵本について。これは有料ですか、無料ですか。

本舗) 無料です。

委員) 無料で差し上げると、費用がかさむと思いますが、大丈夫なのでしょうか。

本舗) 何回かに分けて限定人数で実施いたします。1回30名を予定しております。費用については予算にも組み込んでいます。

委員) 吹田市立図書館ではブックスタート事業を実施しており、似たような事業だと、利用者は混乱しないでしょうか。それから、申込書を書いていただくので、個人情報収集することになりますが、どのように考えていらっしゃるのか。市の事業との切り分けと、個人情報の保護についての考えをお聞かせ願いたいと思います。

本舗) 最終的には市と協議の上、実施するかどうかを決めていきますが、オリジナルで自分の名前が載った絵本となりますので、ブックスタートとはニュアンスが違うものになると思います。健都ライブラリーではイベント色を重視した事業展開を考えていますので、市の事業と切り分けはできると思います。収集する個人情報についても、あくまでも絵本を作るための資料としての個人情報ですので、記載していただく情報については事前に市に確認していただいてから実施するという手法をとります。個人情報についてはルール化した上で、進めます。ライブラリーの運営企業が責任を持って

対応いたします。

委員) 実績はあるんですね。

本舗) 今、やっています。

委員) もう一つ、「子ども自身が「調べる」ためのサポート」ですが、「パスファインダー」を作成し」という先ほどと同じような構造があります。市職員が作るものとどう切り分けているのでしょうか。もう一つ「学校支援への取組み」、こちら中央図書館に学校支援センターがあって、そちらで実施しているので、受託者が独自にできる部分はあまりないと思うが、どのように考えられているのでしょうか。

本舗) 独自で展開するのではなく、様々な図書に関するイベントに関して市職員に相談したり、一緒に入っていて行ったり、私どもも当然市の事業にはお手伝いさせていただきます。私どもが新たに提案する部分について、もしも採用いただけるのであれば、独自事業ではなくて吹田市と一緒にやっていく事業ととらえています。

委員) 「インターバル速歩」というのは商品登録をして関大の先生がされているのですか。

本舗) 関西大学健康学部の先生と長野県の信州大学医学部が共同で研究しているトレーニングとなっており、先生とはすでに話もしているので、実現可能な事業だと考えています。

委員) 公園などの広報活動もしっかりしていただきたいと考えていますが、いかがでしょうか。

本舗) 事業計画書に記載していますが、現状はLINEと施設のホームページを活用しています。そちらを分析した結果、個人へのアプローチと知りたい情報をキャッチできるような活用方法となっていたので、より広い周知をするために知らない情報をいかにキャッチできるかであったり、より広い方の目に触れてもらえるような広報計画を提案しました。

委員) 健康寿命プラス1歳というのは健都ライブラリーや健都レールサイド公園を使って吹田市の健康寿命を1歳上げていこうというコンセプトなのですか。

本舗) 吹田市はすでに全国的に見てもトップレベルのクラスにあるので、もっと推進できるようにこちらの施設で健康づくりを行っていただいて、吹田市の健康寿命の延伸に寄与できればと考えています。

本舗) 広報周知について、付け加えます。私たちが施設について調べたところ、他にはないコンセプトの施設だと思いました。しかし、利用者を調べたところ、徒歩や自転車等近隣の方に限られていて非常にもったいない状況だと思いました。まずは吹田市全域からしっかりと人を集めることが重要ということで、北摂地域に影響力のあるシテイライフと協力することで周知を進めます。

委員) 吹田には北千里図書館、千里北公園があって、真ん中には千里図書館、千里南公園があって、南に行くと江坂図書館、江坂公園があって今回桃山公園もありますし、そのような中で、この健都ライブラリー、健都レールサイド公園は本当に吹田全域から

の吸引力があるのでしょうか。ここに來た人の健康度、笑顔度を目標にするということではないのでしょうか。

本舗) 吹田全域に公園も図書館もありますが、こちらのコンセプトは学ぶことと運動すること両方また交互に行うことで求められることが成し得ると理解していますので、それは吹田市内の他ではできない、ここだからできる施設であると理解しています。その上で、今課題となっているのは、分かりやすさをどう表現するかだと思いますので、そちらを中心にやっていきたいと思います。

委員) バスに乗って 1 時間以上かかる広域の方を本当にターゲットにするのですか。自転車や徒歩で来る人に健康度、笑顔度をもっとわかってもらえる、というのを大事にするというのでいいのではないですか。

本舗) もちろんまずは一番近くの方が、より深く知っていただきたいというのが前提にあった上で、バスに乗っても来たいと思えるような魅力ある施設であることを周知させるという意味でお話しました。

委員) 「健康と笑顔あふれる集いの場」で目標者数 34 万人という利用者数が本当に目標なのか、ここで健康とはということを知る学ぶということが目標なのか。

また、課題は 7 月 8 月 9 月の利用者数が少ないことが課題です、ここをなんとかするのでと記載があります。7 月 8 月 9 月は場合によっては公園に来ては駄目ですよ。本当に公園のことを考えていますか。

本舗) まず夏場の公園について、我々も多くの公園の管理を行っているが、どこも夏場の集客を伸ばすのが非常に厳しいです。やはり、まずは屋内施設があること、外にあっては基本的に水遊び場があること、やはり水景施設がないことには夏場を伸ばすことはなかなか難しいだろうなと感じています。基本はベースアップだと思っており、満遍なく上げていこうと考えています。夏場については、日中は諦めて、それよりも朝それから夜の利用を増やしていく、そちらの方にシフトをしていかないと来ていただけないとはわかっています。

委員) 次に「バッタの原っぱづくり」について、健都レールサイド公園では芝生広場として管理を行ってきたので、協議会を通じて、慎重に理解を得ながら実施しないと、机上の空論になると思うが、どう考えていますか。

本舗) 現状のまま、芝生広場に復活させるのは非常に厳しいと思っています。中々利用調整がきかず、過度な利用でこのようなことになっています。そもそもの成り立ちから、芝生広場として維持したいとの地元要望があれば、予定している協議会の中で、どこを目指すのか協議していきたいと思います。おそらく、全部を芝生広場にするのは費用的にも難しいと思うので、将来的にどうしたいのかを相談の上、芝生をキープしておくところと草地にするところを織り交ぜながら、落としどころを探ろうかなと思っています。

本舗) 先ほどの御指摘の中で、全市域から市民を呼び込むことを考えているかという点に

ついて、公園の視点から見ると、吹田市では総合公園を含め健康に関しての利用者が多く、市内各地で実施しているので、その方々をわざわざ南まで呼び込むことは現実的ではないと考えています。しかし、ここにしかない機能を発信するという意味では、経験から、南部地域へは情報が行き届いていないので、健都での運営ができれば、北と南の双方の情報発信をすることで「たまには他の公園へ行ってみようか」という空気づくりがある程度できればいいと考えています。

委員) 収支計画書の表で、委託料の割合が非常に高いですが、「委託料 構成企業 3 社への委託費等」と書かれていてこの内訳だと、何に使っているか全くわからない。ここをもう少し明確にしていきたい。

本舗) 委託費の内訳に関しては改めてお示しすることは可能です。現段階では構成企業への人件費を含めた経費というものが大半です。それぞれの分野のプロフェッショナルの集まりで品質を重視しているため、委託料が他に比べて高いかもしれません。

委員) こちらの事業者をお願いすることになれば、委託料一括ではなく、旅費がいくらなど、内容別で出してもらう方が見やすいし、比較しやすい。

本舗) 承知しました。

委員) 収支決算書のうち、代表企業 A の決算書類について、税引前当期純損失が大きいのが気になります。直前期が 3 億 6000 万円で、その前が 3 億 2000 万円、もう一つ前が 3 億 7000 万円で、ずっと赤字が続いています。何か理由があるのでしょうか。

本舗) 代表企業 A は設立されて 10 年になりますが、最初は親会社の事業に含まれて開始されました。令和 2 年に独立して子会社として、独立採算の決算を行うようになりました。コロナ等につづかって、施設の閉鎖等もあり決算だけでみるとマイナスではありますが、今順次新しい施設も取れだして、ある程度右肩上がりの会計記帳になっていますので、御安心いただきたい。また、代表企業 A の親会社と連結決算になっています。その上で CMS というマネジメントシステムを採用しており、親会社から自動的に子会社にお金が渡るシステムで、条件はありますが、我々が独自に金融機関から融資を募るということではなく、グループ全体でキャッシングを受け取るということで、そちらの心配は全くないというところを、事業計画書の中に書いて親会社の COO の証明書のようなものを付けているのもそのような背景があるからです。

委員) 販売費および一般管理費の明細があってここで突出しているのが、支払手数料で 9 億 7800 万円。これが多分赤字の原因ではないかと思いますが、これはどこに支払っている手数料なのですか。

本舗) 支払手数料については弊社の各構成企業に支払っている手数料となります。また自主事業で委託している講師等に支払う手数料が含まれています。

委員) それで、御社が赤字になってしまうということなのですか。

本舗) 代表企業として複数施設を有しているので、コロナ禍で売り上げが落ちたり、閉館等あれば、代表企業である我々が赤字を被ってしまうということになりますが、今現

在、他の施設も回復していておりますので、今後は右肩上がりで収支は改善される見込みです。

委員長) 公園管理について、枯れ木や破損したサインへの対処法を伺いたい。クレームがあってから対応するのは当然ですが、それ以前の、巡回等での対応についてお聞かせください。

本舗) 1日2回午前・午後の巡回をするのが定番となっています。また朝礼で情報を職員間で共有したうえで、得られた情報の中でどう改善していくか検討し、お客様から指摘される前に対処するという事を考えてやっています。大小それぞれの対応があるが、小さいものであれば巡回中の職員が直すこともできます。大きいものについては、計画を立てて実施してくため、ミーティングで確認しながら進めていきます。ただ、どうしても指摘されることもあると思うので、日々共有していきます。巡回は公園業務に精通したものが当たるので、お客様より早く気付くように努めていきたい。

委員長) 健都ライブラリーの特徴を踏まえてどのように運営をしていくのか、特に学びの視点からお聞かせください。

本舗) いろんな人が自由に出入りできて本を読むだけではなく過ごしていただける、憩える図書館を目指していきたいです。もちろん吹田市と協議の上で行っていますが、賑わい創出もしていきたい。中高生が少ない。そこで、中高生の来館につながるような提案もしました。

委員長) 今回2回目の選定になるのですが、これまでの取組についてどう考えていらっしゃるのか。図書館としては継続性も大事だと思いますが、いかがでしょうか。

本舗) 毎年1000回以上のプログラムを行っていて、知識も得ることのできる図書館として吹田市民の生活に機能している図書館だと思います。我々を選定していただいた際には機能が低下しないように当グループにしかできないという提案を事業計画書で「NEW」という記載をしています。すでに魅力ある施設をより向上させるような運営をしていきたいと考えています。

委員) 公園管理業務の運営管理の中に「利用指導」「利用調整」「禁止看板の設置」というのがありますが、皆さんの考えや姿勢をお聞かせください。

本舗) 基本的に公園は安心安全な場所で、多くの人に利用していただくことが大事であり、人に迷惑をかける行為については、巡回等気が付いたときに注意をしていくつもりです。ただ、現状かなり禁止看板が多いと感じています。しかも見た目に綺麗ではない禁止看板もあるので、強い禁止を発信するのではなく、良い利用を促す声掛けや掲示をして、みんなで使いたくなるようなメッセージを発信していければと思います。

委員) 財務の面からみると、配置予定職員の給与額を見て思ったのですが、今後の御提案というのは、この配置予定職員の方がされるのでしょうか、それとも皆さんがされるのでしょうか。

本舗) こちらについては現段階で各社で予定している職員を記載しています。

委員) 皆さんが今おっしゃっていた企画がこの方たちから発信されるのか、それとも皆さんが御検討いただけるのでしょうか。今ここで聞いたことが実際に実現されていくのでしょうか。

本舗) 両方あると思います。現地に入って市の職員と一緒にやっていくから、新しいことであったり、行事の話をしていくのかなと思います。提案書に書いたことは全国の施設で実際にやってきていることですが、その現場で対応できる内容までいけば、すべて現場で対応していきます。新しいことであれば、本部だったりとか応援をする部隊があります。行事に関しても、ライブラリーのスタッフだけではなく、行事のたびに人が入ってサポートしていく予定です。

委員) そこが収支計画書に書かれている委託料に含まれているということですか。

本舗) 現場の給料だけではないものが入っています。

委員長) 今回複数の事業者に応募いただけていますが、他と違っていいところをアピールしていただけますか。

本舗) 我々はスポーツや健康のスペシャリスト、ライブラリーのスペシャリスト、公園・植栽関係のスペシャリスト、清掃・維持管理のスペシャリストを集めた他にはないチームだと自負しています。ですので、ここはいいけれど、ここは駄目だといったところがないチームだと思っていますので、ぜひ我々にお任せいただきたいと思います。

委員長) 最後に事務局から確認事項等がありますか。

事務局) 管理運営仕様書のなかで、健都関係者が実施するイベントへの積極的な連携等を記載しております。これに関連して、例年、健都エリアで健都進出企業等が参画する健都フェスを開催していますが、共通パンフレットの印刷等、費用負担を含んだイベントへの参画や協力について、御検討をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

本舗) もちろん健都の一翼を担う一施設として、健都の盛り上げを共に推進していければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【採点】

【採点表最終審査】

【採点集計】

【採点結果報告】

事務局) さて、採点結果でございますが、1位と順位付けした委員数は次点者と本舗それぞれ2名1位と順位づけられました。そこで、2位と順位付けした委員数ですが次点者が2名、本舗が3名となっております。以上、採点の結果でございます。

委員長) 採点結果に基づき、本舗を健都ルールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリー指定管理者候補者に選定、合わせて次点者も選定しますが、異議はありますか。

各委員) 異議なし。

委員長）異議なしとして承認いたします。

【講評】

【答申受取】

【事務局から今後のスケジュールの説明、事務連絡】

【閉会】